

NO.3

ゲッケイジュ

(クスノキ科)

葉や枝に芳香があり、昔から薬用や香辛料として利用されている木です。この葉を乾燥したものが、カレーの中に入られている香辛料のベイリーフであることをご存じの方も多いでしょう。実は、芳香健胃薬として利用されます。もともとは地中海沿岸が原産の木で、日本へは1905年ごろ入ってきたといわれており、日露戦争の勝利記念樹として日本各地に植えられました。

常緑の中高木で、高さは10～15mほどになります。葉は楕円形で葉の縁が波状となり、4～5月頃黄白色の小さな花をつけます。雄の木と雌の木に分かれており、雌の木は極めて少ないといわれています。そのため、日本では実生繁殖が難しく、挿し木や株分けなどで増やされます。

萌芽力があり刈り込みにも耐えることや、葉を香料や薬用に使われることなどから、個人の庭園や公園などによく植えられています。



▲ ゲッケイジュ



▲ ゲッケイジュの花のつぼみ



▲ ゲッケイジュの葉：上表面、下表面